

ワークショップ「ユーザー側視点のITC再出発」報告

2016年12月10日、中京大学名古屋キャンパスにて経営情報学会東海支部との共同開催行事として、「ワークショップ『ユーザー側視点のITC再出発』～あなたのITC資格、眠らせていませんか～」が開催されました。経営情報学会から4名、ITCから9名の参加でした。最初にITC中部磯部秀敏理事長の開会挨拶では、「ポイント取得というITC中部への求心力が弱くなってきた。新たな求心力が必要である。」という本行事企画の背景の説明がありました。経営情報学会東海支部長の静岡大学情報学部田中宏和教授より、「東海支部は昨年から活動を再開した。個々の大学関係者として、各人の研究課題が企業課題解決に貢献すべく企業人とのコネクションを強化したい。」との挨拶があり、続いて同氏による基調講演の「中小企業の経営革新の進め方～アジャイル型業務改善と経営工学の新展開」は、中小企業には段階的、逐次的な改善活動が有効であり、脱ベンダー化が進むというものでした。

後半は、小職より「ユーザー側視点のITCの使命は？」として、「日本のIT人材はユーザー側に少ない。日本のIT人材は転職しないのでゼネラリスト的。」という内容の話題提供を行い、引続いてITC中部の山本憲司理事のファシリテーションにより、「①企業内ITCが独立して成功するための主要成功要因(CSF)とは、②このCSFのためにITC中部、経営情報学会に期待すること。」テーマについてグループディスカッションを行い、ITC中部と経営情報学会の今後の活動企画の候補がまとめられました。

2016年度は有志により新しい活動企画の検討を行いました。次年度は今回の行事結果を引き継ぐ形でITC中部の求心力強化に寄与し、資格の有効利用につながるプロジェクトを立ち上げたいと考えております。(ITC中部理事 吉田 信人)

踊る賀詞交歓会2017

いつもありがとうございます。ブランドデザイン(BD)委員会委員長の高橋です。毎年恒例の「ITC中部賀詞交歓会」を開催させて頂きましたので報告させて頂きます。

名古屋では今年度初の大雪が降りしきって・・・

2時間程前から事前から準備を進めていた我々(BD委員会)はある不安を抱えておりました。この雪で交通機関もマヒしていた為、皆さんは無事に会場に向かう事が出来るのか・・・と。

心配とは裏腹に、雪を纏った参加者が次々とご来場され、開始前に座席は埋まりました。さすがはITC中部！交通の乱れなどの不測事態への対応力の高さに感動しました。

自己PRタイムでは嬉しい知らせが！

昨年独立したITCが、法人化されたとの報告がありました。また、秋山副理事長からは「定年後のITC独立」について、マッチング事業等の紹介をして頂きました。

今年も豪華絢爛な景品達が「有志」の景品が中心となるビンゴ大会ですが、今年も素敵な景品(高級日本酒・ITグッズ・話題の任天堂関

連グッズ)などが次々と当選。当選者の方の笑顔が印象的でした。中締め後も・・・

雪も名刺も景品も、舞うように飛び交いまさに「踊る賀詞交歓会2017」と言える会場の盛り上がりでした。水口副理事長に中締めを頂き、2次会・3次会・4次会・・・夜は更けて行きました。

2018年度の賀詞交換もぜひご期待下さい！(ITC中部 高橋 浩史)



賀詞交歓会の様子

事務局だより

昨年の11月18日(金)・19日(土)の日程で、ベルサール新宿グランド(東京都新宿区)で開催されましたITC Conference 2016に参加してきました。2日間で延べ1,600名を超える方が参加する盛大な大会となりました。今回のテーマは「IoTで拓がる未来～情報活用とセキュリティ経営～」で、基調講演では、「Mr.IoT」で知られる株式会社ウフル上級執行役員八子 知礼様が、「IoTで広がる未来への可能性」と題してお話されました。個人的には「モノだけでなく、つながっていないすべてをつなぐことでスマートな世界を創るそれがIoT」や「データを活用・流通・販売する事を目指して早く意思決定して早く着手すること」などいままでも意識していた違った視点で、新しいビジネ

スのネタになるような気付きをいただきました。

今、この事務局だよりを執筆している2017年1月27日には、平成28年度補正サービス等生産性向上IT導入支援事業の補助事業者の交付申請が開始されました。中小企業に、IOTを導入して、どのように生産性(経営力)を向上させるかをしっかりと考えるよい機会となりそうです。

今年度もITC中部はITCAと連携してITコーディネータの皆様のビジネスやITコーディネータにご支援いただく中小企業様のお役に立てるようなイベントを開催していきます。今年もご期待くださいませ。(ITC中部 事務局長 山本 憲司)

NPO法人・ITC中部広報誌第28号 平成29年3月30日 発行

発行：NPO法人・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6 (NSC内))
発行責任者：NPO法人・ITC中部 理事長 磯部 秀敏 編集責任者：NPO法人・ITC中部 広報委員長 吉田 信人
ホームページ (https://itc-chubu.sakura.ne.jp/)

NPO法人・ITC中部 広報誌

Vol.28



非特定営利活動法人

ITC中部

<https://itc-chubu.sakura.ne.jp/>

新しいITCの合格体験記



目次

大型公共案件落札とITCAの変化 1

特集「新しいITCの合格体験記」

新しいITCの合格体験記 宇野佳孝さん 2

新しいITCの合格体験記 村瀬尚子さん 2

ITC岡山交流会 3

南知多ビーチランド 3

ワークショップ ユーザー側視点のITC再出発 4

踊る賀詞交歓会2017 4

事務局だより 4

大型公共案件落札とITCAの変化

2016年4月28日、1本の電話があった。当時の事務局長中塚さんからの特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(略称ITCA)理事就任を打診する内容だった。2年ほど前から、地方のITコーディネータ(略称ITC)が2～3名ずつITCA理事に就任している話は聞いていたので、躊躇なくお引き受けすることにした。自分自身が個人として、ITCAの理事にふさわしい資質を持っているとは思わないが、現在のITC中部理事長という立場から考えれば、断るという選択肢はなかった。

2016年6月17日、ITCA理事会に出席すると、中塚さんの退任が伝えられ、後任の太田事務局長の挨拶があった。私が正式に理事に就任し、ITC理事が7人となったこのタイミングで、ITC理事連絡会が設立された。設立の目的は、「ITC制度の趣旨を踏まえ、地域を代表するITC理事の情報交換・意見交換の場およびITCの立場でITCAの活動について提案・意見・助言を行うこと」である。太田事務局長+ITC理事7名の情報共有ツールとしてサイボウズliveが採用され、これによる情報交換が本格的に始まったのは10月だった。

それからまもなくの11月22日、ビッグニュースが飛び込んだ。太田事務局長からの発信文書の中身を閲覧してみると、中小企業庁の新着ページにリンクが貼られていて、平成28年度補正予算「経営力向上・IT基盤整備支援事業(次世代企業間データ連携調査事業)」に係る提案の募集(企画競争)における事業者を決定しました、との記載が目についた。目線をやや下げると、「採択結果：特定非営利活動法人ITコーディネータ協会」とある。正直、待ちわびた朗報であった。

遡ること8年、つなぐIT推進委員会が設置されたのは、2009年である。この時から、ITCAでは、つなぐIT推進委員会を中心に、中小企業において、情報をつなぐことの重要性を議論してきた。

たとえば、現在の日本では、入金業務において、銀行から伝えられる口座番号とカタカナの電文から支払元を類推し、手作業で請求消込を行う、という旧式の事務手作業が普通に行われている。これをEDIにより、発注側と受注側で情報連携し、企業内においても他システムと情報連携していけば、生産性は格段に高まるはずである。大企業においては、すでに実現できていることであるが、多くの中小企業においては、取引のある大企業それぞれのEDIに加入するか、EDI以外の方法で情報交換するしかなく、社内の情報連携もままならない状況である。

これを打開するため、また、2020～2025年のISDNの廃止も踏まえて、中小企業庁への本提案に至ったものと思われる。

今回の事業は、2段階に分かれている。第1段階では、「企業間ビジネスデータ連携基盤」整備のために以下の2点を実施する。

- ・企業間データ連携を行い、これによる企業の生産性向上効果があることの実証検証
- ・データ連携プロバイダ経由で、企業の業務アプリケーションデータ交換が容易にできることの実証

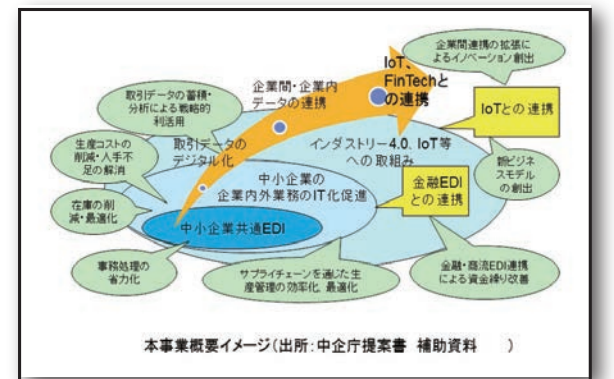
更に、第2段階では、受発注業務をスタートとしてビジネスデータ連携基盤の普及と自走化のための体制整備を行うことにより、以下の実現を目指す。

- ・「企業間ビジネスデータ連携基盤」を中小企業全体へ普及させ、中小企業トータルの生産性向上を底上げする方策の立案

- ・中小企業が第4次産業革命の一翼を担い新しいビジネスモデル構築へ取り組めるようにすること

今回事業の受託額は、9.24億円である。おそらく、ITCAが受託した公共案件の最高額ではないかと思う。今回はいくつかの委託先があるので、ITCAの手元に残る金額は多くはない。それでもこの大型事業のプライマリーとしてプロジェクト全体の運営管理を担う役割を獲得できたことは、ITCAが組織としての安定感を評価されたという意味で、大きな前進である。

今回の落札は、相当前から準備を進めていた努力がやっと実を結んだ結果とも言えるのだが、それだけではないと思う。周到な準備を進めていたにも関わらず、最後に他組織に持って行かれたことは過去にあった。大型案件の落札まで行けた結果に変化を感じる。本事業を成功させれば、さらに大型の公共案件を落札することにも道を開くことになるだろう。今後のITCAに大いに期待したい。当然、小職もITCAの一員(理事)として微力ながら貢献する覚悟である。(ITC中部理事長 磯部 秀敏)



特集 「新しい I T C の合格体験記」①

Q1：IT コーディネーターになろうと思ったきっかけは何ですか

A1：経営コンサルタントとして独立するために必要だったからです。中小企業診断士と併用することで付加価値を高めようと考えました。

Q2：受験対策（勉強方法）はどのようにおこないましたか

A2：プロセスガイドラインの基本事項を中心に、模擬問題集を繰り返し解きました。簡易的な試験ではないので、それなりに勉強しました。

Q3：実際の受験する時に留意することは何ですか。

A3：IT 技術者視点で考えるより経営者視点で考えることだと思います。技術を知識として覚えるのではなく、活用するという視点で考えると比較的解きやすいと思います。

Q4：IT コーディネーターになって魅力を感じることは何ですか。

A4：私の場合は経営コンサルタントとしての付加価値を高めることができている点です。中小企業診断士と IT コーディネーター、その他 IT 資格を保有していることで IT の専門家としてのブランドを維持できています。

また、講習で学んだフレームワークなども十分に活用し、お客様からの信頼も得られています。

Q5：その他（何でも）

A5：IT コーディネーターを取得したことによって、私の商圈拡大にも繋がっています。最初は中部県内での活動が中心でしたが、IT コーディ

ネーターをきっかけとした色々な繋がりにより関東圏進出も実現できました。それだけでなく、現在では、国内唯一の IoT 経営コンサルタントとして、全国的に講演や IoT 経営コンサルティングの依頼も多数頂いており、IT コーディネーターを持っていることで多くのお客様からの依頼を頂いていることも事実です。今後、IT コーディネーターの取得をお考えの方は、自分の可能性を引き出すためのきっかけ作りとして是非挑戦することをお勧めします。

全国で活躍できる IT コーディネーターになることも夢ではないと思います。
(ITC 中部 宇野 佳孝)



ITC 中部 宇野 佳孝さん

特集 「新しい I T C の合格体験記」②

Q1 IT コーディネーターになろうと思ったきっかけは何ですか

A1 「BMW」と聞いて何をイメージされますか？きっと代表的な車数点が頭に浮かび、と同時に高級感や高品質、安心感もイメージされるのではないのでしょうか。資格も同じです。世の中には多種多様な資格がありますが、それらはすべてその分野の一定以上の品質を保証しています。

IT コーディネーター資格は、経済産業省推進資格であり、経営と IT の両面に精通したプロフェッショナル人材の養成を狙いとしています。経営者の立場に立って「IT 経営」をサポートするための資格となれば、IT 業界に身を置くものとして、お客様への品質証明のためにも必要な資格であると思い取得しました。

Q2 受験対策はどのようにおこないましたか

A2 プロセスガイドラインを読みながら、市販の問題集を繰り返し解きました。

Q3 ケース研修はどうでしたか

A3 架空の事例をもとに、フェーズごとの着眼点や使用するフレームワークの活用方法などを、体系的に学ぶことができました。ともすれば我流になりがちな部分ですので、定石を学ぶことができて大変勉強になりました。また、他企業の仲間と共に学ぶ経験は刺激的であり、あっという間の時間でした。

Q4 IT コーディネーターになって魅力を感じることは何ですか

A4 資格取得の過程で、定石を身に着けることができました。これを自社内へ展開する中で、若手の成長が感じられるとき、強い手ごたえ

を感じます。お客様から社員が褒められるとき、この上ない喜びを感じます。

Q5 これから資格取得を目指そうとしているみなさんへ

A5 企業が成長するために、IT 投資は不可欠です。生産性向上や販売促進にも IT は活用されます。AI などいろいろな技術が出てくる中、どんなときに、どういう IT 投資を行えば企業にとって最適投資となるのかといった判断は、経営者のみで行うことは難しいものです。そこをプロとして支援することは、とてもやりがいのある仕事だと思います。ぜひ頑張って合格を目指してください。

(ITC 中部 村瀬 尚子)



ITC 中部 村瀬 尚子さん

I T C 岡山合同研修会

恒例の交流会は、今回は吉備の国岡山です。以下に交流会の内容を紹介します。

1. N P O 法人 I T C 岡山の紹介（理事長の久保田氏）

2005 年の設立で現在の会員数は 23 名。地方の団体としては中規模と言えます。内 I T ベンダ所属が 16 名で大多数を占めています。活動内容は各種研修会、応援隊や国・自治体の中小企業政策への協力など。

2. I T C 中部の紹介：（広報委員長の吉田さん）

概要、組織、委員会活動および中部地区や名古屋を要領よくまとめて紹介。

都市の魅力調査結果を紹介しましたが、岡山と名古屋がほぼ同じ形で且つ魅力数字が低かったのがおもしろい。

3. 中部地区の活発な製造業の活況と情報化の事例（最高顧問の和澤さん）

生産管理に関する様々な事例を「和澤節」で面白く紹介。生産管理のプロらしい内容で参考になりました。

4. 情報セキュリティと I S M S の動向（理事長の久保田氏）

最近の情報セキュリティ事故、手口、対策を I P A の資料などを使って紹介。

5. 「ポケモン G O」で I T 戦略：（副理事長の秋山さん）

ポケモン G O とはどのようなものか〜ポケモン G O を使った集客までを楽しく紹介。

6. 晴れの国岡山よもやま話（理事長の久保田氏）

おかやま I T 経営力大賞や岡山の長寿企業の話+「鬼に会う吉備路の紹介」

懇親会は、岡山の地酒が味わえる店（いざ酔いの月）。よもやま話で盛り上がりました。
(I T C 中部 池山昭夫)



合同研修会の様子

南知多ビーチランド

BizUp 委員会では、毎年恒例となりました会員家族も参加できるイベントを、昨年 12 月 3 日に南知多ビーチランドにおいて実施したので紹介します。

当日は、1 2 月としては暖かい晴天となりました。ITC 中部会員 14 名とご家族の参加となりました。

午前中は、南知多ビーチランド 川本所長様の講演と自由見学でした。川本所長様からは、これまでの施設歴史や苦労された事などと、今後の方針等について講演いただきました。

昼食後は、大池獣医様からの講演がありました。現在、全国には獣医師として届けられている人数に比べて、各地の水族館で専属の獣医師として活躍されている方が非常に少ないという話や、獣医師の日常業務内容等について紹介して頂きました。

その中で、地域との連携では近くの浜辺や港などに迷い込んだ動物との関わりなど貴重な話を伺うことができました。

そして最後は、バックヤードツアー。こちらは、イルカなどそれぞれ毎に用意するエサの内容や量が違い、それらを間違いないように準備しているとのこと。その後は、大水槽の 2 階に上がり上から大水槽を見学、そしてエサやり体験などを説明員の伊藤さんから話を聞か

せて頂きました。

最後に、無事に終えることができてありがとうございました。来年も家族参加型のイベントを行いますので、取上げてほしい施設がありましたら連絡ください。
(ITC 中部 BizUp 委員会 東條 理)



南知多ビーチランド